

たのしく× パクりんご

2020年
11月1日(日)
第4号
(食プロジェクト)

第4号は、「障害者支援施設みずき」にオープンしたばかりの「cafe at」をご紹介します。徳武施設長から、期待と意気込みをコメントしていただきました。



◇本気のcafe始めました◇

9月16日大安吉日、みずきの一角、桜並木が美しいバス通りに面した角地に、「cafe at」(カフェアット)がオープンしました。みずきが第三者評価などで長年課題として指摘されてきた地域交流の起点とすべく、地域への事業展開を視野に入れた厨房拡張工事と合わせて、清水の舞台から飛び降りる気持ちで企画しました。

「at」という店名は、みずき内のアンケートで決まりました。「at」の意味(〜にて)が表すように、地域とみずきがつながる場所、加えて「Art(アート)」もイメージしており、芸術作品などで地域社会を「アット」言わせることも狙っています？

店内には、喫茶スペースと展示・販売スペース、多目的室があります。喫茶スペースでは、高級コーヒーマシンで淹れる本格的なコーヒーなどのドリンクや、みずき厨房が腕によりをかけた自信の軽食メニューを提供します。展示・販売スペースでは、近隣・福祉施設の自主製品、地域の方の作品などを展示販売していきます。すでに、こまね工房のクッキーは大人気商品です。また、大画面テレビのある多目的室は、ゆくゆくはみずきご利用者や地域の方々など、幅広く活用していきたいと思っています。どんな出会いがあって、どんな風に展開していくのかワクワクします。ただ現在は、新型コロナウイルス感染症予防対策に重点を置かざるを得ません(オープン

も2か月遅れました)。だから少しずつ、そしてコロナが収束したら思いきって、地域やご利用者に愛される笑顔あふれる居心地の良いカフェに育てていきたいです。みなさん、ぜひお越しくください！スタッフ一同笑顔でお待ちしています。

◇カフェの発祥◇

日本における『カフェ』の発祥は、1888年(明治21年)にオープンした「可否茶館」と言われ、「コーヒーを飲みながら知識を吸収し、文化交流する場」として開業しました。その後、「カフェ・プランタン」「カフェ・パウルスタ」「カフェー・ライオン」などが開業し、それぞれの独自性や立ち位置をもとに日本におけるカフェ創成期を作り、その後数多くのカフェが広がったそうです。現在の明るくて新しい「カフェ」のイメージは、1994年にカフェの本場・パリをお手本にしたオープンカフェが流行したことから広まりました。2000年以降は、アメリカ西海岸からのカフェスタイルのブームとともに、さまざまなチェーン店が生まれ、現在に至ります。



編集後記：菅野 健司(特別養護老人ホームさくら/栄養課/調理師)

皆さま、新型コロナウイルス対策でお疲れでしょうが、時にはコーヒーなど好きな物を食べてストレスコーピングをしながら笑顔を忘れずに過ごしたいところです。食チームとしても、活動を通して元気と幸せをお届け出来ればと思います。

